

使い方の手びき

《取扱説明書》

plano s10

ごあいさつ

この度は「ジャノメ・プレール・810」をお買い上げ頂きましてありがとうございます。
とうございます。

「ジャノメ・プレール・810」は、ジャノメマシンが、70余年の豊かな
経験と技術の蓄積から開発した高級マシンです。

最新の生産技術を備えた工場で、厳しい品質管理を経てお客様にお届
け致しました。

品質面でも、サービス面でも安心してお使いいただけるマシンです。
末長くご愛用され素敵な手作りライフをお楽しみください。

なお、ご使用に際しましては、この「使い方の手引き」をよくお読み
になり、正しくお使いください。



目次

安全上のご注意	2	★かがり縫いステッチ	16
おとり扱いについてのお願い	3	●くけ縫い	17
●各部の名まえ	4	●三重縫い	17
●補助テーブル	5	●直線状伸縮縫い	17
●標準付属品	5	●オートボタンホール	18・19
		●芯入りオートボタンホール	19
		●ボタンつけ	20
		●ファスナーつけ	21・22
操作をおぼえましょう			
●電源のつなぎ方	6	応用縫いいろいろ	
●速さの調節の仕方	6	●キルティング	23
●スタート・ストップボタン	7	●ピンタック	23
●返し縫いレバー	7	●スモッキング	23
●ドロップつまみ	7	●ファゴティング	24
●押え上げ	8	●バッチワーク	24
●糸調子の合わせ方	8	●スカラップ	24
●模様選択ダイヤル	9	●アップリケ	24
●送りダイヤル	9	●シエルタック	25
●各模様と押えの関係	9	●ししゅう	25
●下糸の準備をしましょう	10	●送りジョーズの使い方	26
★ボビンを取り出します	10	●スーパー模様の形の整え方	26
★ボビンに糸を巻きます	10・11		
★ボビンをかまにセットします	11	押え・針・ランプのとりかえ方	
●上糸の準備をしましょう	12	●押えのとりかえ方	27
★上糸を掛けます	12	★押えホルダーのはずし方・つけ方	27
●糸通しの使い方	13	●針のとりかえ方	27
●下糸を引きあげるには	14	●ランプのとりかえ方	27
●布に適した糸や針を選ぶ目安	14		
実用縫いいろいろ			
●直線縫い	15	ミシンの手入れと調整	
★縫いはじめ	15	●ミシンの手入れ	28
★縫い方向をかえるには	15	★かまの掃除	28
★縫いおわりと糸の切り方	15	★かまの分解	28
★針板ガイドラインの利用	15	★かまと送り歯の掃除	28
★厚手の布端の縫いはじめ	15	★かまの組立て	28
●ジグザグ縫いとかがり縫い	16	●ミシンの調子が悪いときの直し方	29
★ジグザグ縫い	16	別売品のご紹介	30・31
★ジグザグ縫い裁ち目かがり	16		
★トリコット縫い裁ち目かがり	16		

安全上のご注意

- ◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。
- いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ◆お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
- ◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.

絵表示の例

	△記号は、警告・注意を促す内容があることを告げるものです。 図の中には具体的な注意内容（左図の場合は一般的な注意）が描かれています。
	⊘記号は、禁止の行為であることを告げるものです。 図の中には具体的な注意内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は、行為を強制したり、指示したりする内容を告げるものです。 図の中には具体的な注意内容（左図の場合は一般的な強制）が描かれています。

警告 感電・火災の恐れがあります。

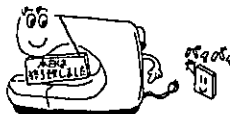


一般家庭用 交流電源 100 Vで
ご使用ください。



以下のような時は、電源スイッチを切り電源プラグを
引き抜いてください。

- ・ミシンのそばを離れるとき
- ・ミシンを使用したあと
- ・ミシン使用中に停電したとき



注意 感電・火災・けがの原因となります。



フットコントローラーの上に
物をのせないでください。



お子様がご使用になるときや、
お子様の近くでご使用される
時は、特に安全に注意してく
ださい。



お客様自身での分解はしないでください。

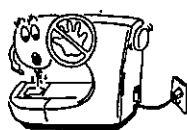


以下のことをするときには、電源スイッチを切つて
ください。

- ・針・針板・押え・アタッチメントを交換するとき
- ・上糸・下糸をセットするとき
- ・ランプを交換するとき（ランプが冷えてから行っ
てください。）
- ・ミシンのお手入れを
行うとき



ミシンの操作中は、針から目を離さないよう
にし、針・はずみ車・天びんなどすべての動
いている部分に手を近づけないでください。



ミシン・フットコントローラーに以下の異常がある
ときは、速やかに使用を停止し、お近くの販売店に
て点検・修理・調整をお受けください。

- ・正常に作動しないとき
- ・水に濡れたとき
- ・落下などにより破損したとき
- ・異常な臭い・音がするとき
- ・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき



曲がった針はご使用に
ならないでください。

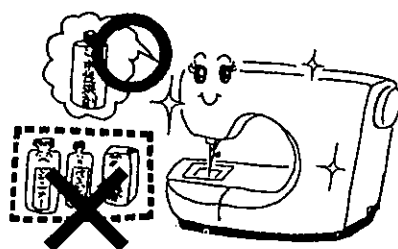


おとり扱いについてのお願い

◇ご使用の前に

ほこりや油などで、縫う布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。

シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

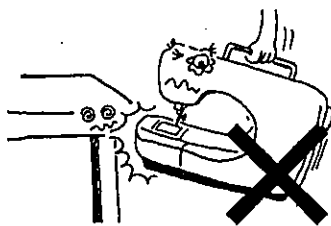
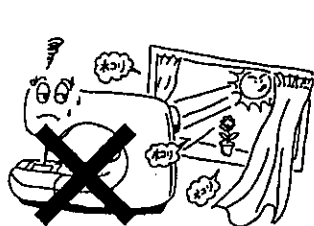


◇いつまでもご愛用いただくために

長時間日光に当てないでください。

湿気やほこりの多いところは避けてください。

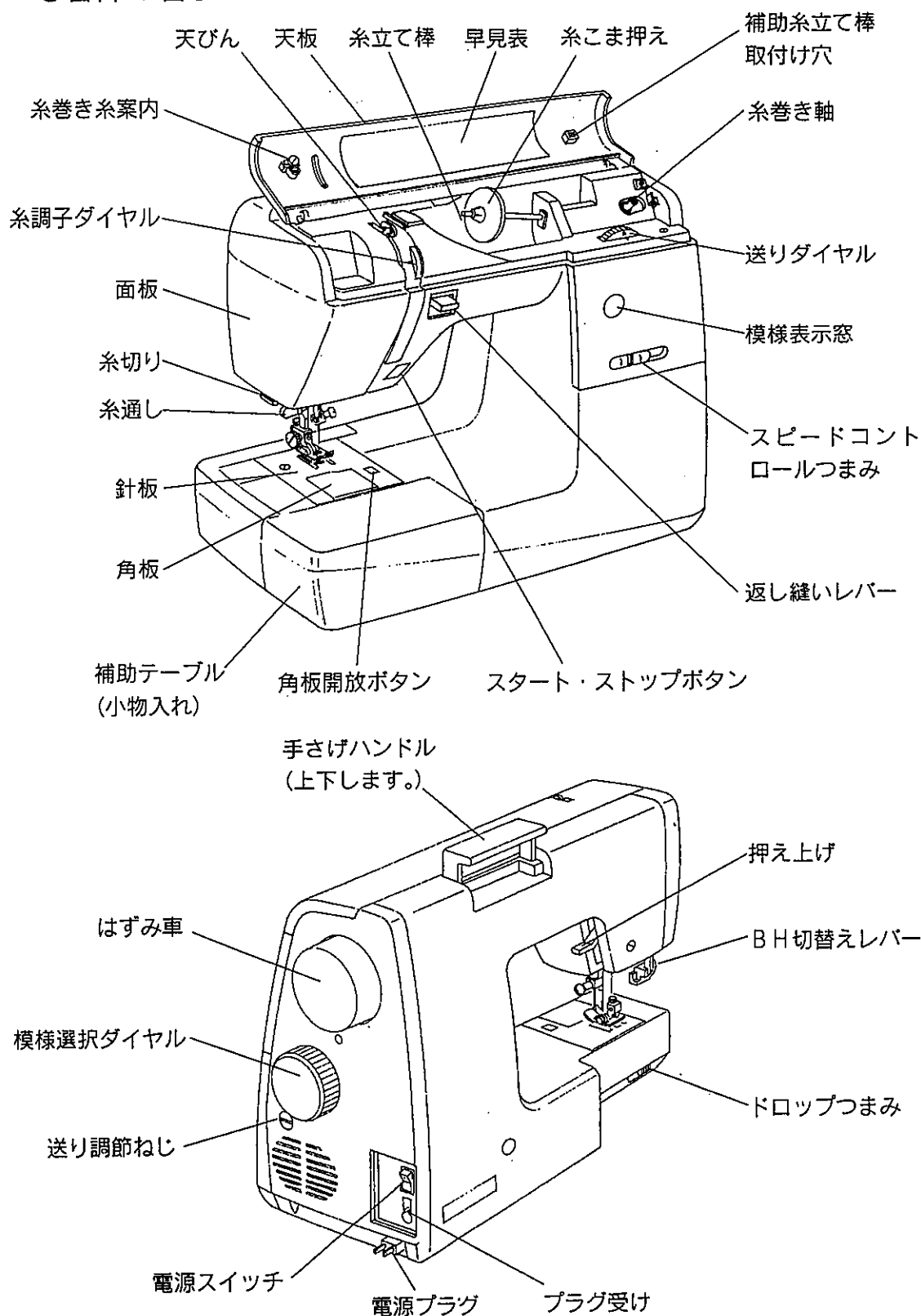
落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。



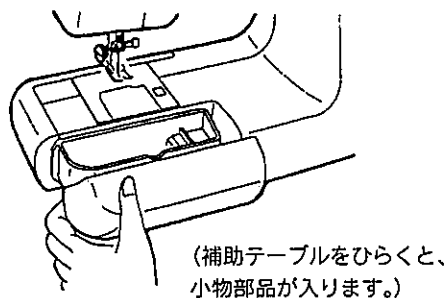
◇ 修理・調整についてのご案内

万が一不調になったり故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(29ページ)により点検・調整を行ってください。

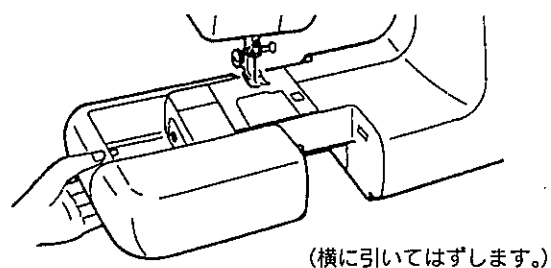
●各部の名まえ



●補助テーブル

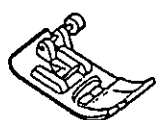


★補助テーブルのはずしかた

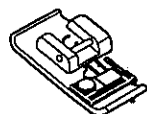


●標準付属品

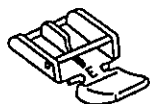
(押えには、記号を表示してあります。)



A 基本押え



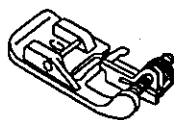
C 裁ち目かがり押え



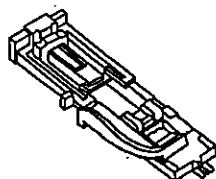
E ファスナー押え



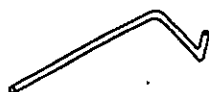
F サテン押え



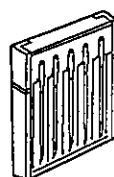
G くけ縫い押え



R オートボタンホール
押え



キルター
(棒定規)



針と針ケース



ねじまわし



補助糸立て棒



ボビン



フェルト



目ほどき



ミシンブラシ

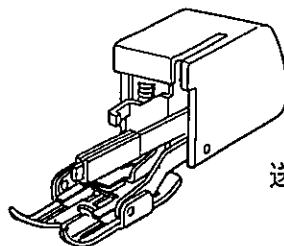


糸こま押え (小)



糸こま押え (大)

*糸こま押え (大) はミシンの糸立て棒についています。

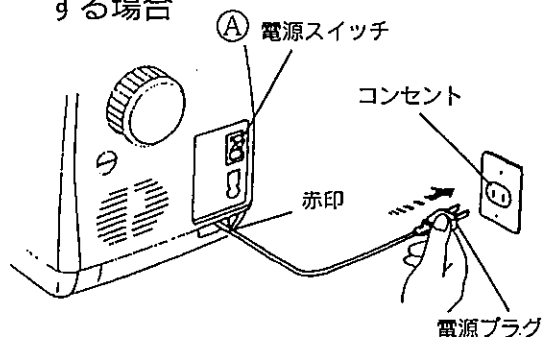


送りジョーズ

●電源のつなぎ方 操作をおぼえましょう

※フットコントローラーは別売りです。(No.033071118)

★スタート・ストップボタンを使用する場合



*スイッチの●印は、「入」

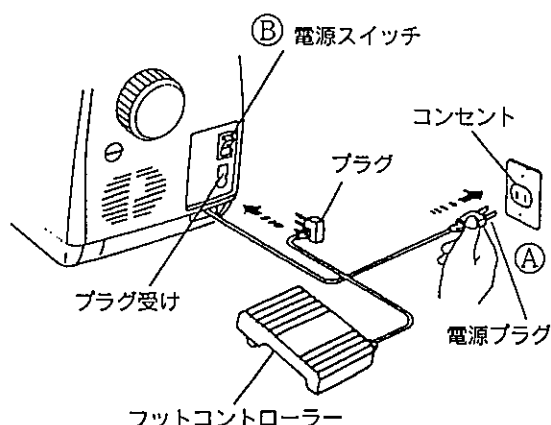
電源スイッチを「切」にして、プラグをコンセントにさしこみます。

*赤印以上は引き出さないでください。

①スイッチを「入」にします。

*スイッチを入ると「ピッ」という電子音がします。

★フットコントローラーを使用する場合

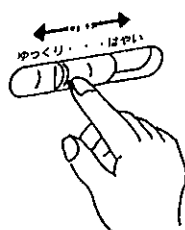


電源スイッチを「切」にして、プラグをプラグ受けにさしこみます。

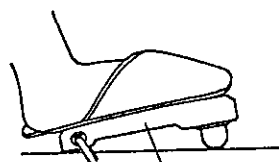
①電源プラグを引き出し、コンセントにさしこみます。

②スイッチを「入」にします。

●速さの調節の仕方



縫う速さは、自由にセットできますので、好みの速さに、スピードコントロールつまみをセットしてください。

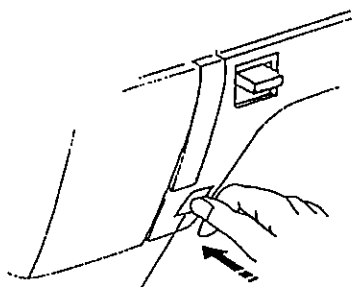


フットコントローラー

フットコントローラーは、深く踏み込むほど速くなります。

*スピードコントロールつまみは「はやい」にセットしてください。

●スタート・ストップボタン

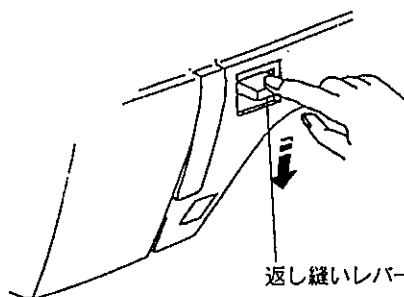


スタート・ストップボタン

ボタンを押すと、ミシンは数針ゆっくりと縫ってからスピードコントロールつまみでセットした速さで縫いはじめます。もう一度押すと、針が上の位置で止ります。

*下糸を巻くときは、ミシンはゆっくりスタートにならずにセットした速さで動きはじめます。

●返し縫いレバー



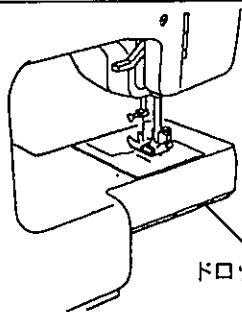
返し縫いレバー

返し縫いレバーを押すと、ミシンは低速で返し縫いはじめ、指をはなすと止ります。

ミシンを動かしている途中で返し縫いレバーを押すと、押している間は返し縫いをし、指をはなすと、前進縫いに戻ります。

*不用意に返し縫いレバーにふれると、ミシンが動きだしますのでご注意ください。

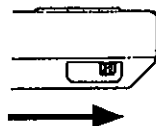
●ドロップつまみ



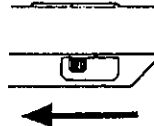
ドロップつまみ

ボタンつけなどで送り歯をさげるときは、ドロップつまみを動かします。

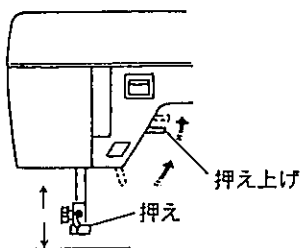
(送り歯をあげた位置)



(送り歯をさげた位置)



●押え上げ

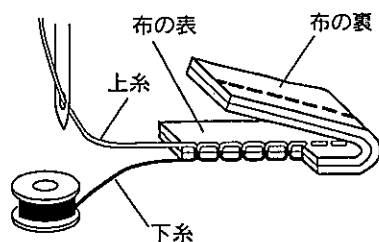
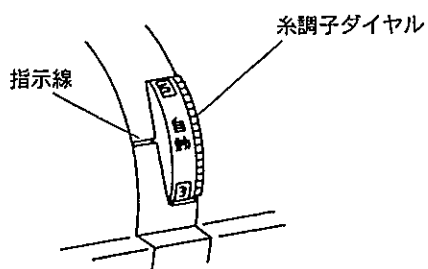


押え上げで、押えの上げ下げをします。
押え上げを普通にあげた位置より、さらに高くあげると、押えはさらにあがります。

●糸調子の合わせ方

★自動糸調子

このミシンは、糸調子ダイヤルを「自動」に合わせると、普通の縫いのときにバランスよく縫える糸調子に自動セットされます。



〈バランスのとれた糸調子〉

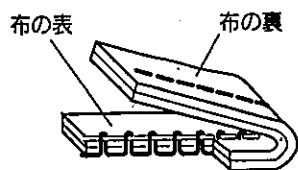
○直線縫いのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわります。

○ジグザク縫いのときは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

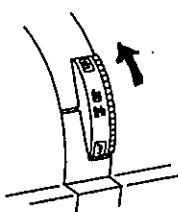
★マニュアル糸調子

糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときは、糸調子ダイヤルを「0～9」に合わせると、マニュアル糸調子となり、上糸と下糸のまじわる位置を自由に調節できます。

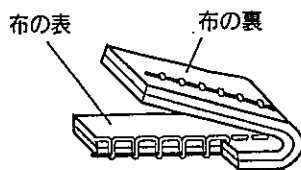
上糸が強すぎるとき・・・小さな目盛りに合わせます。



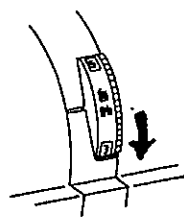
*下糸が布の表に出ます。



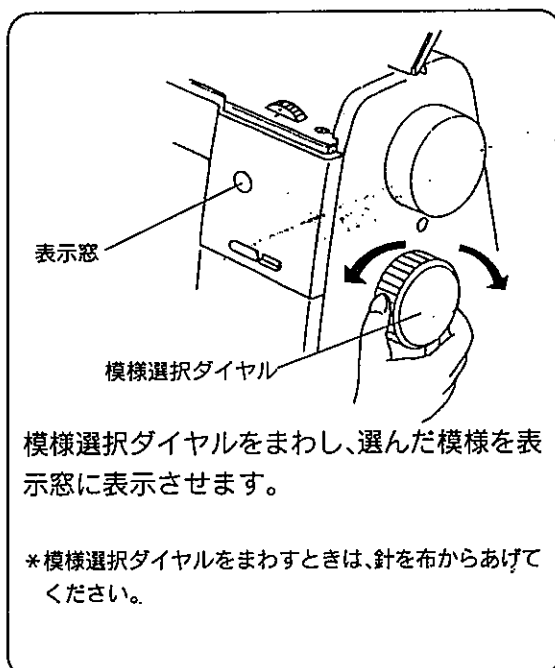
上糸が弱すぎるとき・・・大きな目盛りに合わせます。



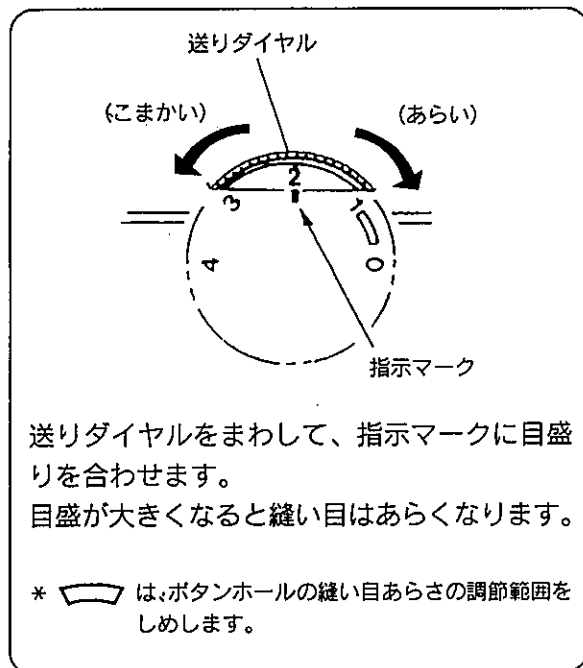
*上糸が布の裏に出ます。



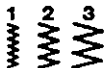
●模様選択ダイヤル



●送りダイヤル



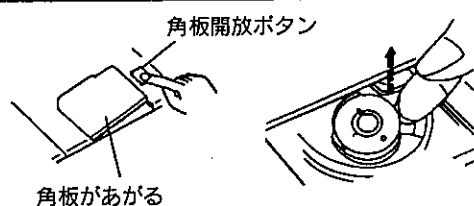
●各模様と押えの関係

模 様											
主 な 用 途	ボタンホール	キルティングなど ファスナーつけ 直線縫い	かがり縫い・ボタンつけ アップリケ ジグザグ縫い	くけ縫い	トリコットステッチ	シエルタック	スカラップ	かがり縫い	パッチワーク ファゴテイング	伸縮縫い	三重縫い
押え記号	R	A・E	A・C・F	G	A	F	F	C	A	A	A

* 印の付いた模様は、スーパー模様ですので送りダイヤルの調節は、必要ありません。

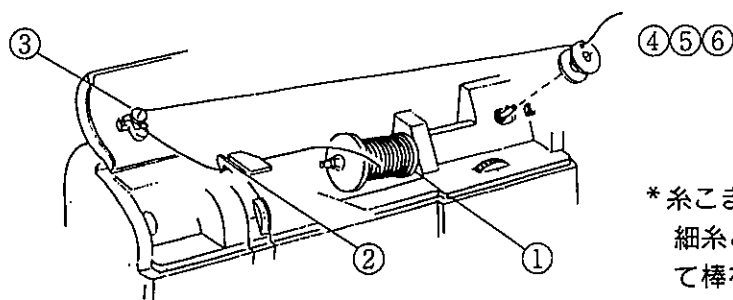
●下糸の準備をしましょう

★ポピンをとり出します



角板開放ボタンを右へずらして角板をはずしポピンをとり出します。

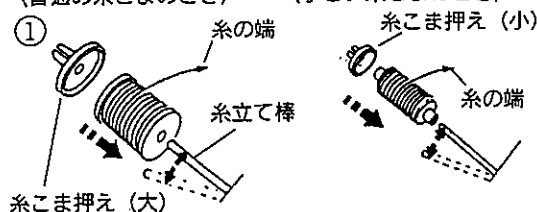
★ポピンに糸を巻きます



*糸こま巻き量が少ないときや、細糸こまのときには、補助糸立て棒をご使用ください。

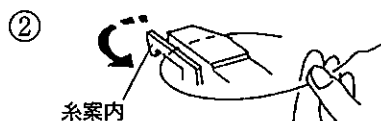
〈普通の糸こまのとき〉

〈小さい糸こまのとき〉



①糸こまをセットします。

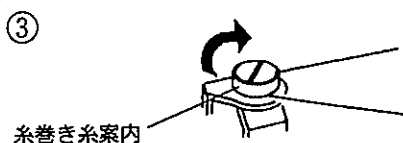
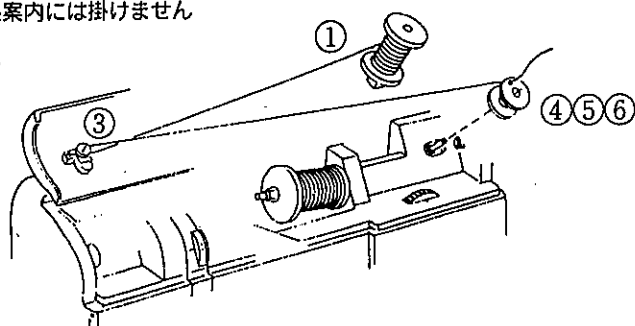
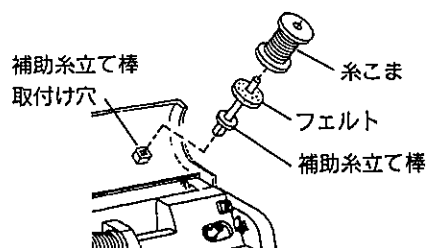
*糸立て棒を軽くおこし、糸の端が向こう側に出るようにして、糸こまを入れ、糸こま押えで糸こまをおさえます。



②糸案内の向こう側から掛けます。

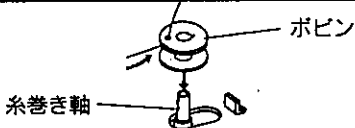
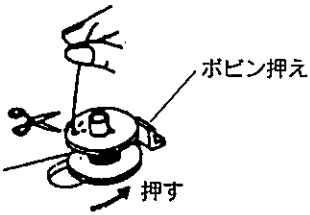
◎補助糸立て棒使用のとき ※②の糸案内には掛けません

①糸こまおよび補助糸立て棒のセット

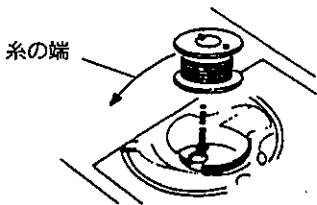
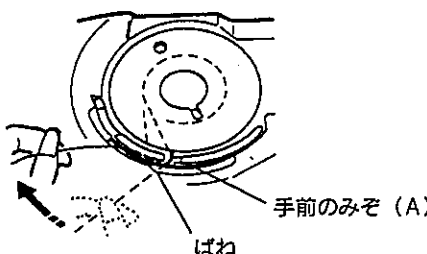
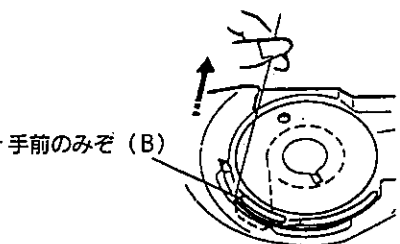
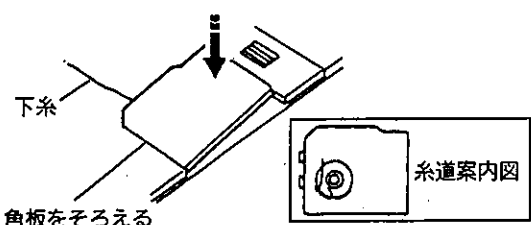


③糸巻き糸案内に糸を掛けます。

*補助糸立て棒を使用するときには、クロスして掛けます。

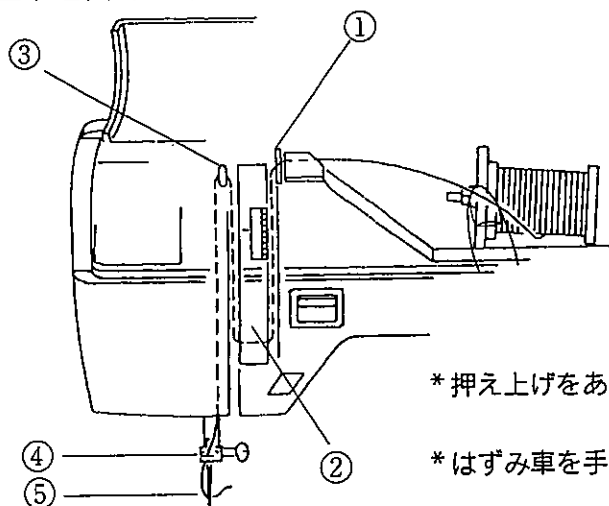
- ④  ④ ボビンの穴に糸を通し、糸巻き軸にさしこみます。
- ⑤  ⑤ ボビンを、ボビン押えの方に押しつけ糸の端をつまんだまま、巻きはじめます。糸がボビンに3重ぐらい巻きついたら、ミシンを止めて穴のきわで糸を切ります。
*糸巻き軸は、必ずミシンを止めてから動かしてください。
- ⑥  ⑥ 再びミシンを動かし巻き終わったら、ボビンをもとに戻し、糸巻き軸よりはずして糸を切ります。

★ボビンをかまにセットします

- ①  ① 角板をはずし、糸の端を矢印方向にだして、ボビンをかまに入れます。
- ②  ② 糸の端を引きながら手前のみぞ (A) にかけて、さらに糸を引いて、みぞの外側とばねの間を通します。
- ③  ③ 糸を手前のみぞ (B) にかけるようにして向こう側に出します。
- ④  ④ 下糸を10 cmくらい引き出して、角板をつけます。

●上糸の準備をしましょう

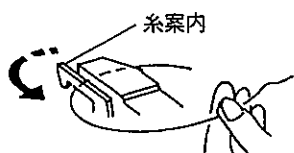
★上糸を掛けます



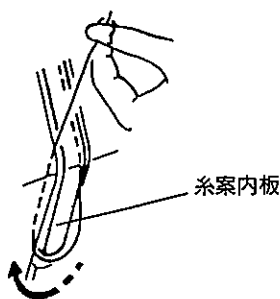
* 糸こま巻き量が少ないときや、
細糸こまのときには、補助糸立
て棒をご使用ください。
(補助糸立て棒の使い方は、10ページをご
らんください。)

* 押え上げをあげます。

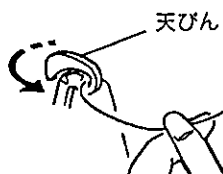
* はずみ車を手前に回し、天びんを上部にします。



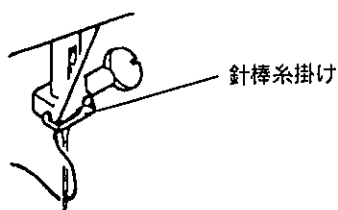
① 糸こまから糸を引き出し右手で糸こまを押え、左手
で糸を持ち糸案内の向こう側から糸案内板の右側に
そって下におろします。



② 糸案内板の下を回して、右から左に掛け、上に引き
あげます。



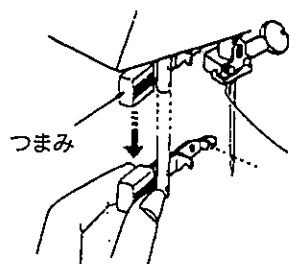
③ 天びんへは、右から後ろを回して左へ出し、手前
に引き出して、まっすぐ下におろします。



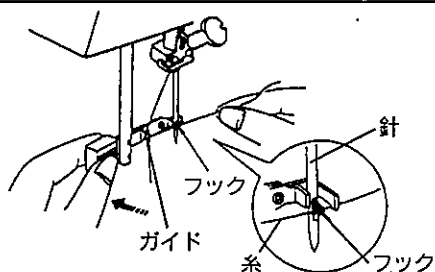
④ 針棒糸掛けに左から掛けます。

⑤ 糸通しを使って針に糸を通します。
(糸通しの使い方は、13ページをごらんください。)

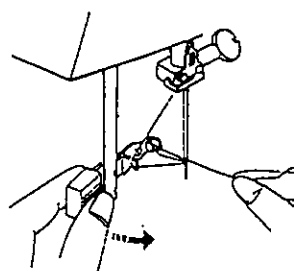
●糸通しの使い方



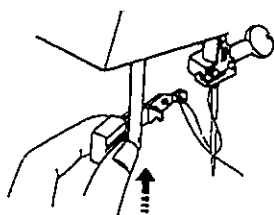
① 針を上げて、糸通しつまみを止まるまでいっぱいにさげます。



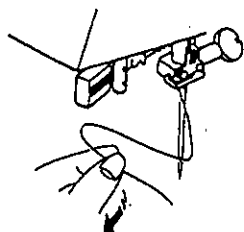
② つまみを矢印方向へまわしてフックを針穴に入れます。糸をガイドとフックに掛けます。



③ つまみを矢印方向に引くと糸が輪になって出てきます。



④ つまみを静かに押しあげ、糸の輪を引きあげます。

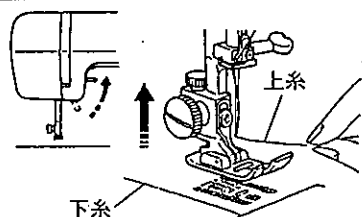


⑤ 糸の端を糸通しからはずし、針穴から端を引き出します。

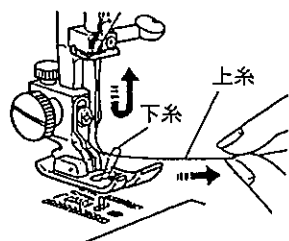
針は、11～16番、およびジャノメブルー針が使えます。

糸は50～100番が使えます。

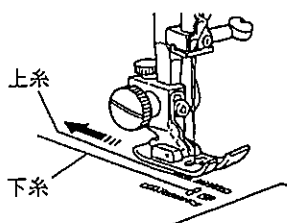
●下糸を引きあげるには



① 押え上げをあげ、上糸を持ちます。



② はずみ車を手前に回し、針をいったんさげてから再びあげます。上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。



③ 上糸・下糸を押えの下にして後ろへそろえて出します。

●布に適した糸や針を選ぶ目安

布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット ウール・化繊布	絹糸 80番～100番	9番～11番
		綿糸 80番～100番	
		化繊糸 80番～100番	
普通の布	普通木綿・化繊布 薄手ジャージー 一般ウール・化繊服地	絹糸 50番 綿糸 60番～80番 化繊糸 50番～80番	11番～14番
		綿糸 50番	14番
厚い布	デニム ジャージー コート地 キルティング	絹糸 50番 綿糸 40番～50番 化繊糸 40番～50番	14番～16番
		絹糸 30番 綿糸 30番	16番

*一般に、うすい布には細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に、針と糸を選び、試し縫をして確かめてください。

*原則として、上糸と下糸は、同じものを使用してください。

*伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や目とびしやすい布地などには、ブルー針を使用すると効果があります。（市販SP針も同様の効果があります。）

実用縫いいろいろ

●直線縫い

*縫いのときは、天板を開けてください。

セッ
トの
目安

模 様

押 え

送りダイヤル

または

A 基本押え

1.5~4

★縫いはじめ

糸と布を左手で押え、はずみ車を手前にまわして、縫いはじめの位置に針をさします。押え上げをさげて、ゆっくり縫いはじめます。

*縫いはじめのほつれ止めは、返し縫いレバーを押しながら数針返し縫いをします。

★縫い方向をかえるには

ミシンを止め、はずみ車を手前に回して針を布にさしたままで押え上げをあげ、布をまわして縫い方向をかえます。

★縫いおわりと糸の切り方

返し縫いレバーを押しながら数針返し縫いをします。押え上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。

糸切りで糸を切ります。

★針板ガイドラインの利用

布端を角板及び針板のガイドラインに合わせて縫います。

*数字は、針落ち中央からの距離です。

数 字	15	20	4/8	5/8	6/8
間かく (cm)	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9

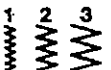
★厚手の布端の縫いはじめ

縫いはじめの位置に針をさし、基本押えの黒色ボタンを押しこみます。

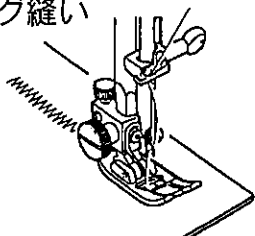
①ボタンを押したままで押え上げをさげます。

②ボタンから手をはなし、縫いはじめます。

●ジグザグ縫いとかがり縫い

セッ トの 目安	模 様	押 え	送りダイヤル	裁ち目のほつれ止めとして広く利用します。
	1 2 3 	A 基本押え または C 裁ち目かがり押え	ジグザグ縫い…0.5~4 かがり縫い… 1~2	

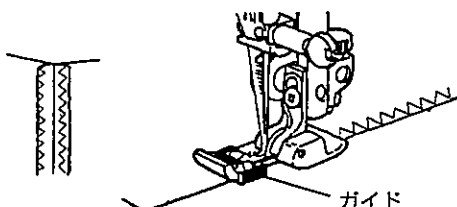
★ジグザグ縫い



伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には接着芯を貼るとききれいに縫えます。

★ジグザグ縫い裁ち目かがり

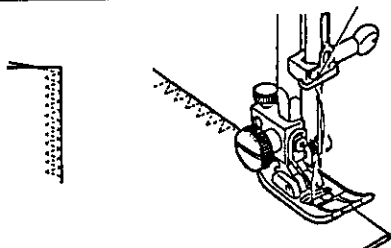
※模様は  を選びます。



布端を裁ち目かがり押えのガイドにあてて縫います。

★トリコット縫い裁ち目かがり

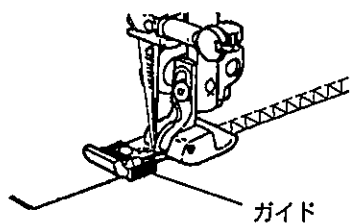
セッ トの 目安	模 様	押 え	送りダイヤル	
		A 基本押え	0.5~1.5	



布端を押えの右端よりやや内側にし、織り糸を1~2本残すようにして縫います。
ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端のそり返り防止などに利用します。

★かがり縫いステッチ

セッ トの 目安	模 様	押 え	地縫いをかねたかがり縫いで、また、裁ち目のほつれ止めとしても使えます。 *送りダイヤルの操作は必要ありません。
		C 裁ち目かがり押え	



布端を裁ち目かがり押えのガイドにあてて縫います。

●くけ縫い

セットの目安	模様	押え	送りダイヤル	
		Gくけ縫い押え	1～3	※スカートやワンピースなどの裾のまつりが簡単にできます。

★（布の折り方）

0.4～0.7 cm

裏

うすい布、普通の布の場合

0.4～0.7 cm

裏

裁ち目
かかり

かたい布、厚い布の場合

★（ガイドの合わせ方）

針が左にきたとき

針が右にきたとき

★（縫い方）

針が左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置いて押え上げをさげます。

④ ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、針が折り山からはずれないように縫います。

●三重縫い

セットの目安	模様	押え	
		A基本押え	

★直線三重縫い

丈夫な縫い目なので、補強縫いとして、袋物やズボンの股上縫いなどに便利です。

*布が前後するので縫い目がまがらないように注意して縫います。

●直線状伸縮縫い

セットの目安	模様	押え	
		A基本押え	

布が伸びても、糸が切れにくい、伸縮性のある縫い目です。

*布が前後するので縫い目がまがらないように注意して縫います。

●オートボタンホール

(BH1の場合・縫い目巾0.5 cm BH2の場合・縫い目巾0.4 cm)

(縫い目の巾)



ボタン の 型	模 様	押 え	送りダイヤル
	BH1 BH2 	R オートボタン ホール押え	0.3~1 (の範囲)

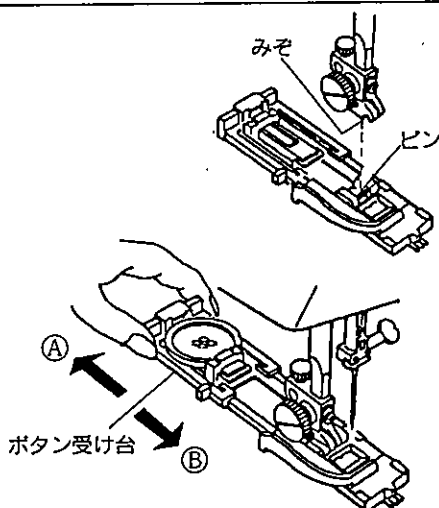
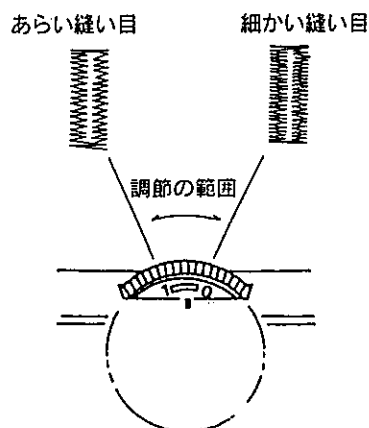
*ボタンホールの長さは、使用するボタンをセットするだけで自動的に決まります。

*ボタンの直径が2.5 cmまで、ボタンホールができます。

*必ず試し縫いをして、正しく縫えることを確認しましょう。

*伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地を貼ります。

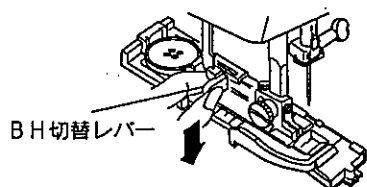
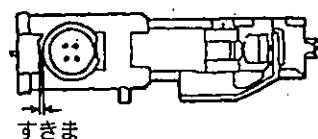
〈縫い目あらしの調節〉



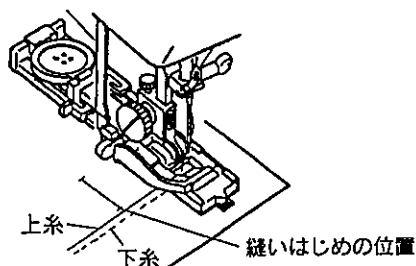
針と押え上げをあげてR押えを取りつけます。

ボタン受け台を①方向に引き、ボタンをのせて②の方向に戻し、はさみます。

*使用するボタンが極厚の場合は試し縫いをして確かめてください。すきまをあけて位置決めするとその分大きいボタンホールができます。



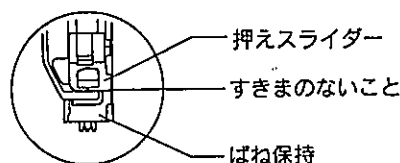
BH切替レバーを止まるまでいっぱいに引きさげます。

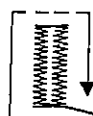


上糸を押えの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。

布を入れ、縫いはじめの位置に針をさして、押え上げをさげます。

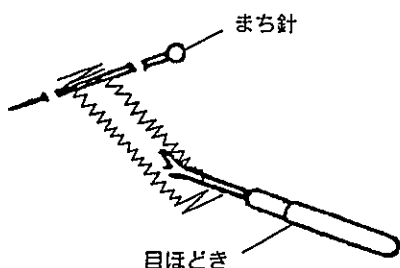
*押えスライダーとばね保持の間にすきまがないことを確認してください。





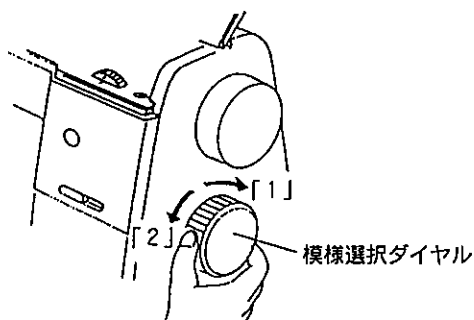
縫いはじめの位置

ミシンをスタートさせ、自動的にとまるまで縫います。



押え上げをあげて布を引き出し、上糸・下糸を10 cm くらい残して切ります。下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。

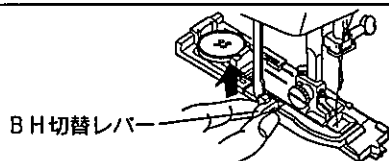
かんぬきの内側にまち針をさし渡して、目ほどきでかがった糸を切らないように切りひらきます。



〈引き続きオートボタンホール縫いをする場合〉

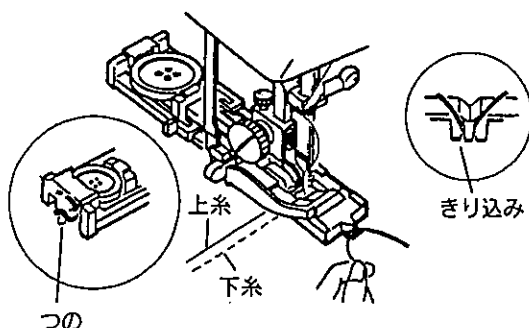
一度ダイヤルを「1」または、「2」方向に回して、他の模様を選んだ後、再びBH模様を選びます。

この操作をすると次のオートボタンホール縫いのセットができたことになります。



ボタンホール縫いが終わったらBH切替レバーを止るまでいっぱい押しあげて戻してください。

●芯入りオートボタンホール



○芯糸を入れて縫うと丈夫なボタンホールができます。

○芯糸にはレース糸や太い糸などを使用します。

つのに掛けた芯糸を、押えの下に通して、前側の切り込みに、はさみます。

縫いはじめの位置に針をさして押え上げをさげ、縫います。

*縫い方はオートボタンホール縫い手順と同じです。

芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。

●ボタンつけ

セッ
トの
目
安

模 様

押 え

ドロップつまみ

*送りダイヤルの操作は必要ありません。

*模様1・2・3は、ボタンの穴の巾に合うもの
を使用してください。

Fサテン押え

はずみ車を手前にまわして、針が左にきたときボタンの左の穴におりるようにします。

④ボタンの左右の穴が真横にくるようにして押え上げをさげます。

⑤押えの中央にまち針をのせ、はずみ車を手前にまわして針が左右の穴におりることを確かめます。10針くらい縫ったら、上糸・下糸を20 cmくらい残して切ります。

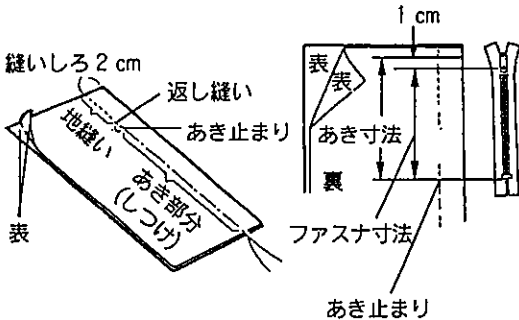
*縫いはじめの上糸と下糸は、はさみで切り取ってください。

⑥上糸をボタンと布の間に引き出してから、上糸を強く引いて下糸をボタンと布の間に引き出し、上糸と下糸を浮かせた足の部分にそれぞれ反対方向に数回巻きつけて結びます。

⑦縫い終わったら、ドロップつまみを元に戻します。

●ファスナーつけ

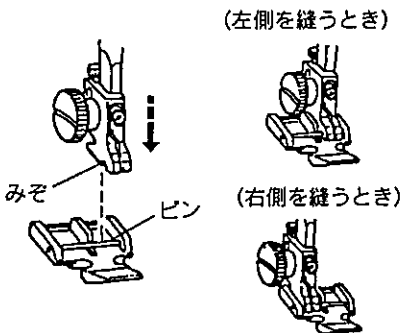
セットの目安	模様	押え	送りダイヤル	※スカート、スラックス、ワンピースなどのあきの始末に用います。
		Eファスナー押え	1.5~4	



縫いしろ 2 cm
返し縫い
地縫い
あき止まり
あき部分 (しつけ)
表
裏
あき寸法
ファスナー寸法
あき止まり

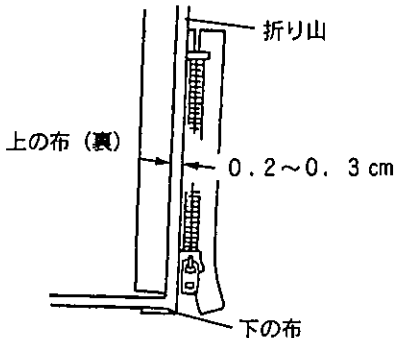
〈準備〉
布を中表に合わせて、あき止まりまで地縫いをし数針返し縫いをします。
①あき部分は、しつけをしておきます。

※あき寸法はファスナー寸法に 1 cm プラスした寸法です。



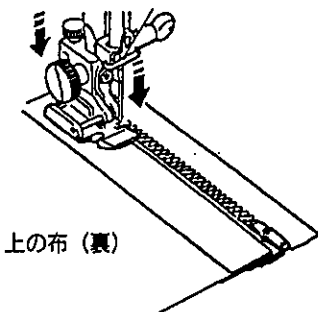
(左側を縫うとき)
みぞ
ピン
(右側を縫うとき)

〈ファスナー押えのつけ方〉
○左側を縫うときは、押えホルダーのみぞにピンを合わせて右側にセットします。
○右側を縫うときは、押えホルダーのみぞにピンを合わせて左側にセットします。



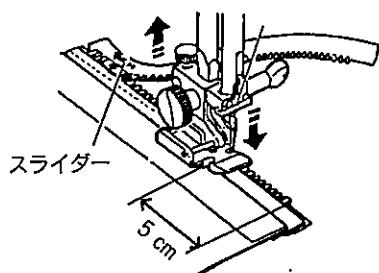
上の布 (裏)
折り山
0.2~0.3 cm
下の布

〈縫い方〉
縫いしろをわり、下の布の縫いしろを 0.2~0.3 cm 出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。

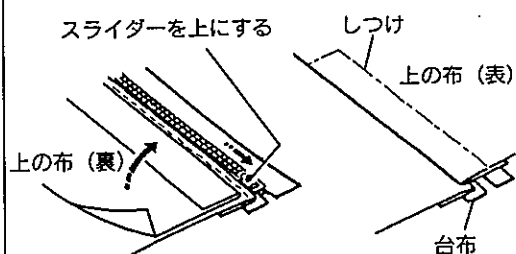


上の布 (裏)

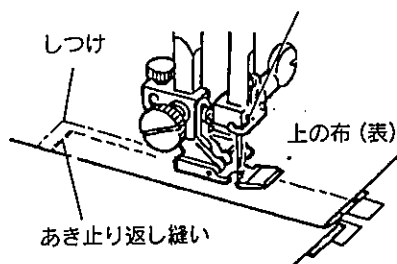
①押えホルダーをファスナー押えの右側にセットします。
②押えの端にむしのきわを当てて、あき止まりから縫います。



㉟ファスナーの端から5 cm位手前でミシンを止め、針を布にさします。押え上げをあげてスライダーを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて端まで縫います。

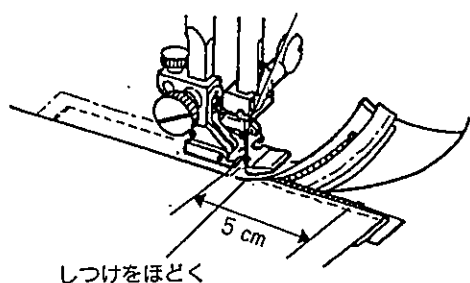


㊴スライダーを上引きあげて、つまみの金具を上へ倒し、上の布をファスナーの上にかぶせます。かぶせた布と台布をしつけで止めます。

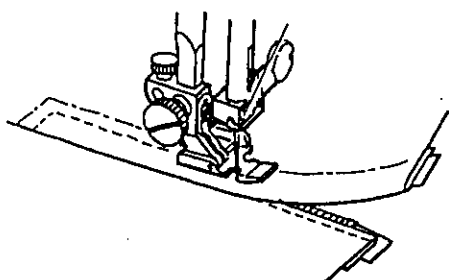


㊵押えホルダーをファスナー押えの左側にセットします。

㊶上の布のあき止まりを返し縫いして、押えの端にスライダーのきわを当てて縫います。



㊷ファスナーの上側を5 cmくらい残したところでとめて、はずみ車を手前に回し針をさげ、針を布にさしたままで押え上げをあげて、しつけ糸をほどきます。



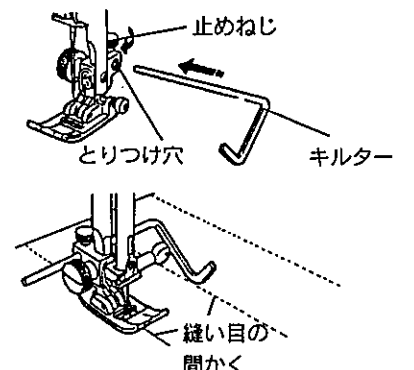
㊸スライダーを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて残りの部分を縫います。

応用縫いいろいろ

●キルティング

*縫いのときは、天板を開けてください。

セットの目安	模様	押え	送りダイヤル	縫い目を平行に縫っていく方法で、袋物などの装飾に利用します。
	または	A 基本押え +キルター	1.5~4	



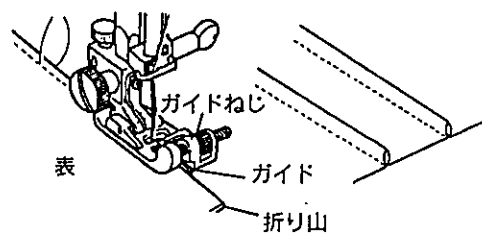
キルター止めねじをゆるめて、キルター（棒定規）を、とりつけ穴に入れ、縫い目の間かくに合わせて、止めねじをしめます。

キルターは、前に縫った縫い目をたどるのに使います。

●ピンタック

セットの目安	模様	押え	送りダイヤル	ブラウスの前身頃などの装飾に利用します。
	または	G かけ縫い押え	1.5~3	

0.1~0.2 cm

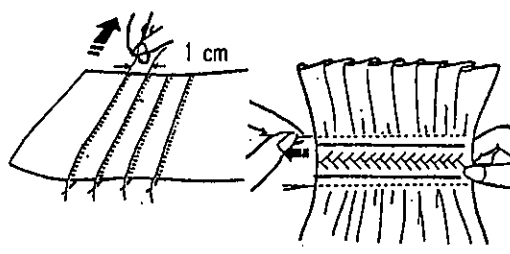


はずみ車を手前にまわして、針が折り山より0.1~0.2 cm内側におりるように布を置いて、押え上げをおろします。

④ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、縫います。

●スモッキング

セットの目安	模様	押え	*送りダイヤルの操作は必要ありません。
	または	A 基本押え	



糸調子ダイヤルを1~3にして、縫い目のあらか0.3~0.4 cmの直線縫いを、1 cm間かくで数本縫います。

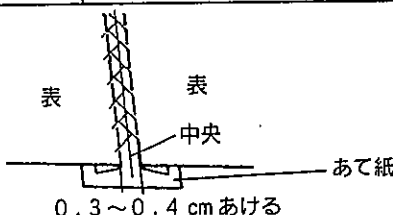
*縫いおわったら糸調子ダイヤルを「自動」に戻します。

④上糸と下糸を布の片側で結び、反対側から下糸を引いて、ひだをよせ、上糸と下糸を結びます。

⑤直線縫いの糸と糸の間に模様縫いをしてから、直線縫いの糸を抜きとります。

●ファゴティング

セッ トの目 安	模 様	押 え	送りダイヤル	*模様  は送りダイヤルの操作は必要ありません。
		A 基本押え		



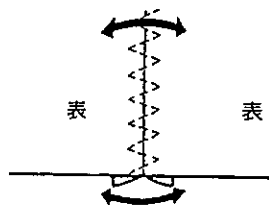
布端と布端の間かくを0.3~0.4 cm あけて、裏にあて紙をします。

④ 布の表から、間かくの中央を中心にして縫います。

⑤ あて紙をとります。

●パッチワーク

セッ トの目 安	模 様	押 え	送りダイヤル	*模様  は送りダイヤルの操作は必要ありません。
	 または 	A 基本押え	0.5~1.5	



布を中表に合わせ、地縫いをして、縫いしろを割ります。

布の表から、地縫いの線を中心にして縫います。

●スカラップ

セッ トの目 安	模 様	押 え	送りダイヤル	
		F サテン押え	0.5~1	

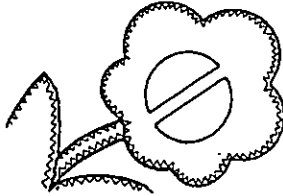


布を表から、布端を1 cm くらい残して縫います。

④ 糸を切らないように、外側の布を切り落とします。

●アップリケ

セッ トの目 安	模 様	押 え	送りダイヤル	*アップリケ布は糊づけするか、しつけで止めます。また、両面接着芯を使うと便利です。
		F サテン押え	0.5~1	

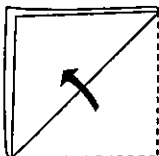


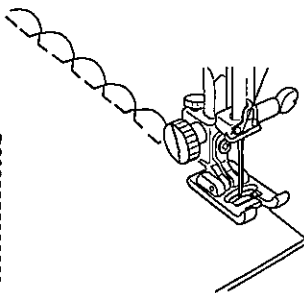
アップリケ布が、針の左にくるようにして、ふちを縫います。

*カーブのところや方向転換をするところでは、はずみ車を手前に回し、針を下位置にしたままでかえると、きれいに仕上がります。

● シェルタック

セッ トの 目 安	模 様	押 え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	*糸調子は、試し縫いをして、 シェルタックの山がきれいに 出るように調整します。
		Fサテン押え	2~3	3~9	



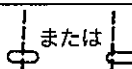


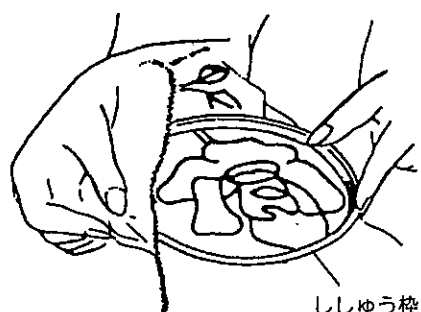
うす手の布をバイヤスに2つ折りにし、右側を輪にして押えの下におきます。

はずみ車を手前にまわして針が右にきたとき、布端ぎりぎりの外側におりるようにして縫います。

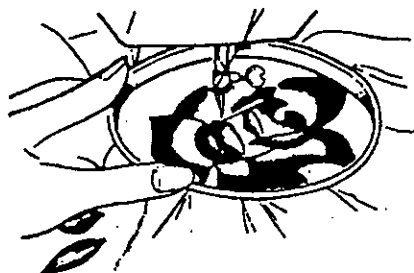
布を開いて、タックされた山をアイロンで片側にたおします。

● ししゅう

セッ トの 目 安	模 様	糸調子ダイヤル	ドロップつまみ	*押えと押えホルダーをはずします。 *送りダイヤルの操作は必要ありません。 *糸調子ダイヤルは、布の裏側に上糸が少し出る くらいにゆるくします。
		0~4		



ししゅう枠



○模様は、あらかじめ布の上にえんぴつかチャコで印をつけてください。

布をししゅう枠にピンと張ります。

*ししゅう枠は、標準付属には含まれていません。

①上糸の端を左手でつまみ、針を縫いはじめの位置にさし、押え上げをおろします。

②はずみ車を手前にまわして針をあげ、上糸を引いて、下糸を布の上に引き出します。

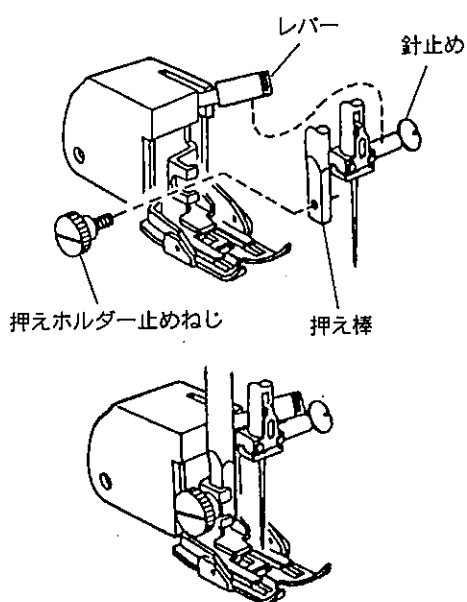
③左手の指先で上糸と下糸を押えて止め縫いをし、余分な糸を切ります。

④ししゅう枠を手で下に押しつけるようにし、ゆっくり縫いながら、針が布から抜けている間にししゅう枠を動かし、模様を縫います。

*動いている針に手を近づけ過ぎて、刺さないように気をつけましょう。

⑤縫い終わったら、ドロップつまみを元に戻します。

●送りジョーズの使い方



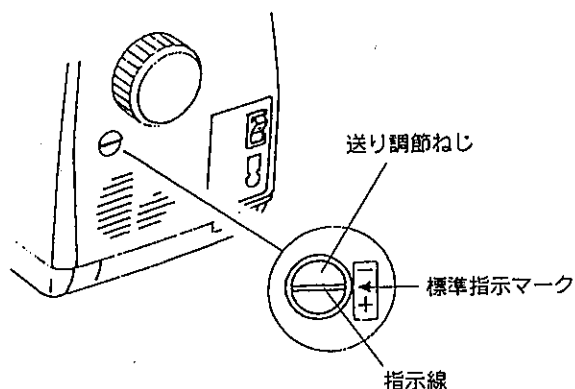
送りジョーズは、上下の送り歯で布をはさみこみながら布送りをするので、薄物、ニット地、ビニールレザー、皮革などの素材に使用すると縫いずれや縫いじわを防止するのに効果があります。

[取付け方]

1. 針と押え上げをあげます。
2. 押えホルダー止めねじをはずし、押えホルダーをはずします。
3. レバーが針止めにのるように、送りジョーズを向こう側から押え棒に取付け、押えホルダー止めねじでしっかりとしめます。

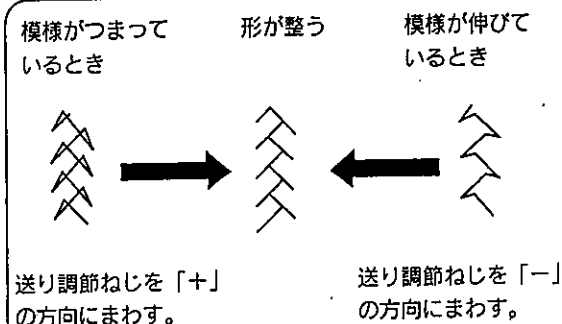
※低速から中速くらいの速さで、ミシンを運転してください。

●スーパー模様の形の整え方



布の種類、枚数、縫いの速さなどによっては、模様の形がくずれる場合もあります。実際に縫うときと同じ条件で試し縫いをしながら送り調節ねじでつぎのようにして調節してください。

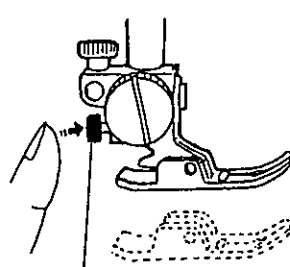
* 標準指示マークと指示線が一致する位置が、模様を正しく縫える目安の位置です。



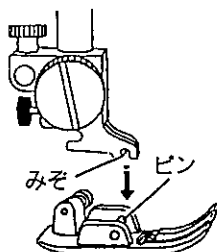
押え・針・ランプのとりかえ方

●押えのとりかえ方

押え・針・ランプのとりかえのときには、必ず電源スイッチを「切」にしてコンセントから電源プラグを抜いてください。



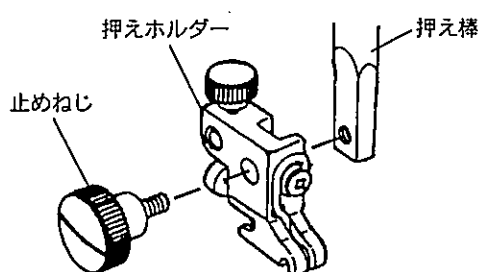
赤色ボタン



押え上げをあげて、赤色ボタンを押して、押えをはずします。

①押えのピンを押えホルダーのみぞに合わせて押え上げを静かにおろします。

★押えホルダーのはずし方・つけ方



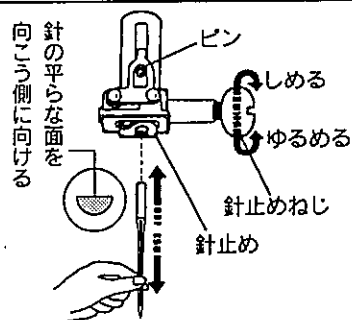
〈はずし方〉

押え上げをあげ、押えをはずし止めねじを、左にまわしてはずします。

〈つけ方〉

押えホルダーの穴と、押え棒のねじ穴を合わせ、止めねじをさしこみ、右にまわして、しっかりつけます。

●針のとりかえ方



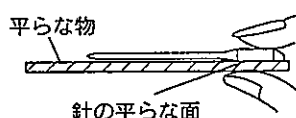
〈はずし方〉

針止めねじを手前に1~2回まわしてゆるめ、針をはずします。

〈つけ方〉

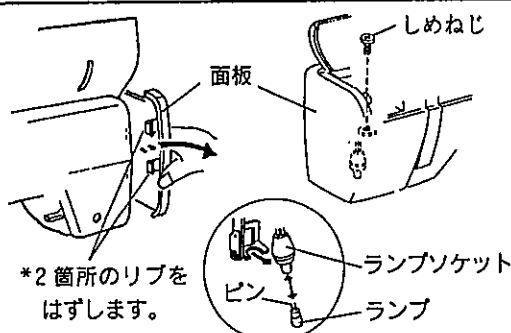
針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで針止めにさしこんで、針止めねじをかたくしめします。

針の調べ方



針の平らな面を平らな物（針板、ガラスなど）に置いたとき、すき間が針先まで平均に見えるのが良い針です。針先が曲つたり、つぶれているものは使わないようにします。

●ランプのとりかえ方



〈はずし方〉

天板をあげ、しめねじをはずして面板をはずします。
ランプソケットをはずして、ランプをそっと引き抜きます。

〈つけ方〉

ランプのピンをソケットの穴に合わせながら、差し込みます。
ランプソケットをとりつけ、面板をしめねじでとりつけます。

ミシンの手入れと調整

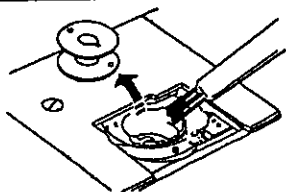
●ミシンの手入れ

使用後は、いきとどいた手入れをして、ミシンをいつも調子よくお使いください。

＊手入れのときには、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。

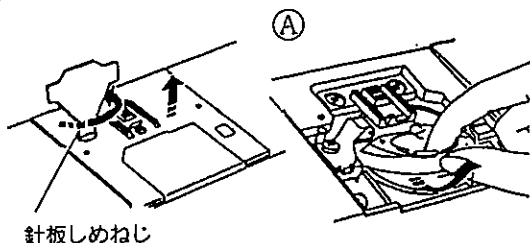
＊針と押えは、とりはずして手入れをしてください。

★かまの掃除



角板をはずし、ボビンを取り出して糸くずやほこりを、ブラシで掃除します。

★かまの分解

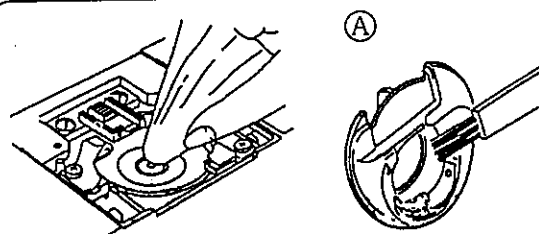


針板しめねじ

針板しめねじをはずし、針板をはずします。

ボビンを取り出し内がまの手前を上引きながらはずします。

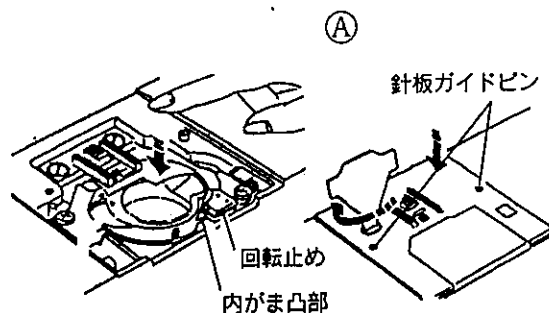
★かまと送り歯の掃除



送り歯のごみを、ブラシで手前におとし、さらに外がまを掃除し、外がまの中央部を布切れで軽くふきます。

内がまを、ブラシで掃除し布切れで軽くふきます。

★かまの組立て



内がまをさしこみ三角マークを合わせて、内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。

ボビンを入れ2か所の針板ガイドピンに針板の穴を合わせて、しめねじをしめます。

●ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	そ の 原 因	直し方
上糸が切れる。	1. 上糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 2. 上糸調子が強すぎる。 3. 針がまちがっていたり、針先がつぶれている。 4. 針のつけ方がまちがっている。 5. 縫いはじめに、上糸・下糸を押えの下にそろえて引いていない。 6. 縫い終わったとき、布を手前に引いている。 7. 針にくらべて糸が太すぎるか、細すぎる。	12 ページ参照 8 ページ参照 27 ページ参照 27 ページ参照 15 ページ参照 15 ページ参照 14 ページ参照
下糸が切れる。	1. 下糸の通し方が、まちがっている。 2. 内がまの中に、ごみがたまっている。 3. ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。	11 ページ参照 28 ページ参照 ボビンを交換する
針がおれる。	1. 針のつけ方がまちがっているか、針がまちがっている。 2. 針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 3. 縫い終わったとき、布を手前に引いている。 4. 布にくらべて針が細すぎる。	27 ページ参照 27 ページ参照 15 ページ参照 14 ページ参照
縫い目がとぶ。	1. 針のつけかたがまちがっているか、針がまちがっている。 2. 布に対して、針と糸が合っていない。 3. 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ブルー針（市販SP針）を使っていない。 4. 上糸の掛け方がまちがっている。 5. 品質の悪い針を使用している。	27 ページ参照 14 ページ参照 14 ページ参照 12 ページ参照 針を交換する
縫い目がしわになる。	1. 上糸調子が合っていない。 2. 上糸下糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分からみついている。 3. 布にくらべて針が太すぎる 4. 布にくらべて縫い目があらずすぎる。 *特にうすい布を縫うときは、下側に紙をあてて縫ってください。	8 ページ参照 12 ページ参照 14 ページ参照 縫い目を細かくする
布送りがうまくいかない。	1. 送り歯に糸くずがたまっている。 2. 縫い目が細かすぎる。 3. 送り歯があがっていない。	28 ページ参照 縫い目をあらくする 7 ページ参照
縫い目に溝ができる。	1. 上糸調子が弱すぎる。 2. 糸にくらべて針が太すぎるか、細すぎる。	8 ページ参照 14 ページ参照
ミシンがまわらない。	1. コンセントに、プラグがきちんとさしこまれていないか、つなぎ方がまちがっている。 2. かまに、糸やごみがたまっている。 3. 糸巻軸が、下糸を巻いたあと、元に戻っていない。（糸巻状態になっている） 4. コントローラを接続したままでスタート・ストップボタンを押している。	6 ページ参照 28 ページ参照 10・11 ページ参照 6 ページ参照
オートボタンホールがうまくいかない。	1. 布に対して、縫い目のあさが合っていない。 2. 伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。	18 ページ参照 18 ページ参照
音が高い。	1. かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。 2. 送り歯に、ごみがたまっている。	28 ページ参照 28 ページ参照

別売品のご紹介

1. 直線押え (NO.823801015)

●直線縫い

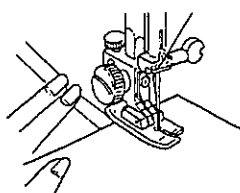
〈セットのめやす〉

模様選択ダイヤル 

糸調子ダイヤル 自 動

送りダイヤル 1.5~4

押え 
H直線押え



《縫い方》

糸と布を左手で押え、はずみ車を手前にまわして、縫いはじめの位置に針をさします。押え上げをさげて、ゆつくり縫いはじめます。

2. 三つ巻き押え (NO.820809014)

●三つ巻き縫い

〈セットのめやす〉

模様選択ダイヤル 

糸調子ダイヤル 自 動

送りダイヤル 1.5~4

押え 
D三つ巻き押え

《縫い方》

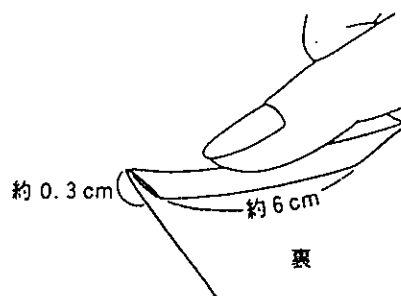
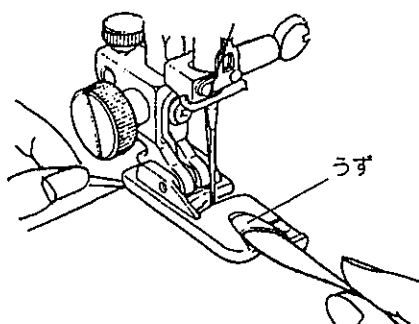
布端の長さ約 6 cm を、約 0.3 cm の巾で 2 度折りまげます。

①縫いはじめの部分に針をさし、押え上げをさげます。

②上糸と下糸をそろえて向こう側に引きながら、布端と押えのガイドを合わせて 1 ~ 2 cm 縫います。

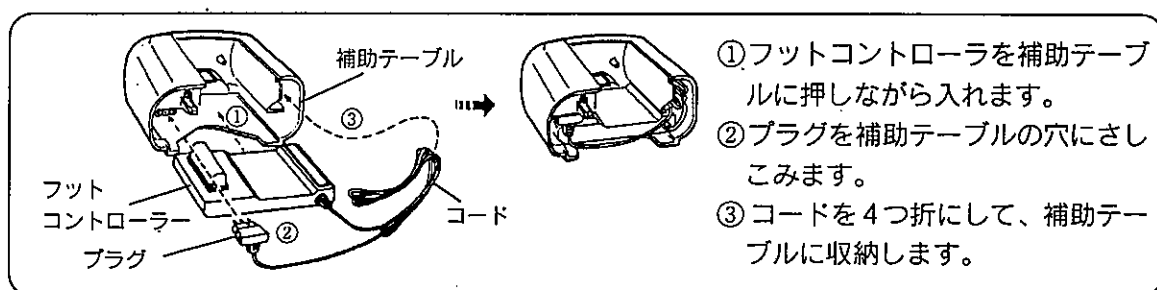
③はずみ車をまわして針をさし、押えをあげて折りまげた布の部分を押えのうずの中に巻きこみます。

④押え上げをさげ、布端を立てて、引きぎみに持ちあげながら縫います。



3. フットコントローラ (NO.033071118)

●フットコントローラの収納



仕 様	
使用電圧	100V 50/60Hz
消費電力	55W/ ランプ3W
外形寸法	幅40cm×奥行17cm×高さ28cm
重 量	7.2kg (本体)
使用針	家庭用 HA×1
縫 速 度	毎分700回転

仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

お 客 様 相 談 コ ー ナ ー

★ジャノメマシンでは全国300近くの直営支店で万全のアフターサービスをしております。この手びきに書かれている方法で直らないときは、最寄りの支店へご連絡ください。

★お問合わせの際は、この手びきをお読みにになりながらお電話くださると係員も故障の原因や個所がわかって便利です。

★アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、本社お客様相談室または、下記の代表支店へ何なりとお申しつけください。

本社・お客様相談室 ☎03(3277)2200
〒104 東京都中央区京橋3-1-1

札幌支店 ☎011(861)5634
〒003 札幌市白石区本通3丁目北1-21

京都支店 ☎075(211)9132
〒604 京都市中京区丸太町通烏丸東入光り堂町420
京都インベリアルビル

仙台支店 ☎022(219)4126
〒981 仙台市青葉区昭和町2-25NOKAIビル1F

広島支店 ☎082(228)5181
〒730 広島市中区幟町15-9

新潟支店 ☎025(249)7481
〒950 新潟市米山2-16

高松支店 ☎0878(31)1721
〒760 高松市常磐町1-4-10

名古屋支店 ☎052(733)5116
〒466 名古屋市昭和区阿由知通1-12-3

福岡西新支店 ☎092(821)6495
〒814 福岡市早良区西新2-6-2

大阪支店 ☎06(213)1635
〒542 大阪市中央区心斎橋筋2-6-9

熊本支店 ☎096(354)6523
〒860 熊本市上通町8-15

* 上記の電話番号および住所は、都合により変更することがありますのでご了承ください。

本社移転のお知らせ

平素は弊社製品のご愛顧を賜わり厚く御礼申し上げます。

さて、この度、弊社は下記に本社を移転することとなりましたので
お知らせ申し上げます。

今後とも一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

記

●移転先

住 所 〒193-0941 東京都八王子市狭間町1463番地
電 話 お客様相談室 0120-026-557 (フリーダイヤル)
042-661-2600

受付 平日 9:00～12:00 13:00～17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

ホームページ <http://www.janome.co.jp>

メールでのお問い合わせ customer@gm.janome.co.jp

●移転日

2009年7月6日

※旧住所 〒104-8311 東京都中央区京橋3丁目1番1号

旧電話 お客様相談室 0120-026-557 (フリーダイヤル) 変更なし
03-3277-2200

蛇の目ミシン工業株式会社

101013002